

1月の防除のポイント

令和5年12月27日
東京都病虫害防除所

主な作物の病虫害防除について、お知らせします。

<無加温施設及び露地野菜>

○ハクサイダニ

真冬に発生し、コマツナ、ホウレンソウ、シュンギク等多くの作物を加害します。被害葉は銀白色となり（図1）、さらに被害が進むと枯死します。近年被害が増加傾向にあります。

胴長は0.8ミリで体色は黒色、脚は赤色と派手なため非常に目立ちます（図2）。植物体上や地表を素早く移動し、外敵が接近すると葉裏に隠れます。休眠卵が10月頃に孵化し始め、5月頃まで植物を加害します。真冬でも本種は発生するため、しっかりとほ場の見回りを行いましょう。

被害株は餌となるだけでなく、卵が多く産み付けられているため、発見次第早期に抜き取ってください。また、被害の多かった圃場には土壤中に多くの卵が残り、翌年の発生源となります。盛夏期に1ヶ月程度、土壌の太陽熱処理を行うことで、本種の発生を抑制することができます。薬剤防除をする場合は、防除指針を参考に行ってください。



図1 ホウレンソウの被害



図2 株元に密集するハクサイダニ

○クローバーハダニ（クローバービラハダニ）

コマツナやホウレンソウの葉の表面に線状の白い斑点があり、すばしっこく動く赤黒いダニが確認されたら、本種による被害と考えられます。冬季は無農薬栽培の施設で多く見つかります。多くの場合、防除の必要はあ

りませんが、薬剤防除をする場合はハダニ類に登録のある農薬が使用できます。防除指針を参考に対策を考えましょう。

○ヤサイゾウムシ

10月頃から幼虫が発生し、コマツナ、ダイコン、カブ等を食害します。新芽を食害されると芯止まりを引き起こします。八丈島でセルリーを暴食した事例があり、注意が必要です。

○べと病（図3、4）

例年11～3月にかけて発生します。主な病徴は葉への淡褐色の不定形～多角形病斑形成と黄化ですが、カブに発生した場合、根内部に小黑点を発生させることもあるため、注意が必要です。作物が長時間ぬれた状態になっていると急速に拡大し、防除が難しくなるため、換気や除湿等を行い、作物体周囲の湿度をできるだけ低く保つよう心がけましょう。



図3 ホウレンソウべと病



図4 カブ根内部の症状

<加温施設>

○灰色かび病（図5、6）

病原菌は多くの作物に寄生しますが、特にこれからの時期は施設栽培で発生が多くなります。施設内では多湿環境になることが多いため、被害が拡大しやすく、注意が必要です。

作物が長時間濡れている状態になっている場合は、換気、循環扇、暖房などによる除湿に努めてください。また、葉が繁茂していると、湿度が高くなるだけでなく、薬剤もかかりにくいため、適度な葉かきを行いましょう。

多発すると防除が難しくなるため、発生を確認した場合、被害部位を除去し、防除指針を参考に薬剤散布を行いましょう。その際、耐性菌の出現している薬剤もありますので、系統の異なる薬剤のローテーション散布に心がけましょう。

なお、薬剤散布は暖かい晴天日を選び、夕方までに薬液が乾くような時間帯に行いましょう。



図5 トマト灰色かび病（茎における発病） 図6 イチゴ灰色かび病

上記以外の病害虫についてのご相談は、電話（042-525-8236）又はEメール（S0200303@section.metro.tokyo.jp）にてお問い合わせ下さい。